



～保護者の方へ～

おたふくかぜワクチン予防接種について

おたふくかぜワクチン予防接種は、法律に基づいて受ける定期接種とは異なり、保護者の方の希望により自己負担で接種する任意接種です。令和2年4月より、釜石市では、接種費用の助成を実施しております。この説明書をよく読んで、医師から説明を受けたうえで予防接種を受けてください。

【接種対象者】

接種当日に1歳を迎えている子ども ※接種時点で釜石市民であること

【接種方法】

接種開始時期	回数	接種間隔
1歳を迎えてから	1回	他のワクチンとの接種後27日以上あける

1、予防する病気

ムンプスウイルスによる全身感染症で、潜伏期間は2～3週間です。耳下腺、顎下腺の腫脹が最も多くみられます。合併症を引き起こすこともあり、無菌性髄膜炎が1～10%の頻度で発症しています。

まれに、脳炎、膵炎や成人男性は精巣炎の報告があります。女性では卵巣炎を合併することもあります。近年、国内外で『難聴』を合併する可能性もあるため注意喚起されています。難聴の報告は小学校低学年が多くありますが、子どもから感染したと思われる30代の大人についての報告もあります。

2、おたふくかぜワクチンについて

おたふくかぜワクチンは、ムンプスウイルスを弱毒化した生ワクチンです。接種後に体内でワクチンウイルスが増え、約90%の方に抗体ができます。

3、四種混合ワクチンの副反応

主な接種部位の副反応として、注射部位紅斑、注射部位硬結、注射部位腫脹などがあり、注射部位以外の副反応として発熱、気分変化、下痢、鼻水、せき、発しん、食欲減退、咽頭発赤、嘔吐などがあります。極めてまれに、ショック、アナフィラキシー様症状（接種後30分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと）、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんなどがみとめられます。

4、予防接種を受ける前に

(1) 一般的注意

気にかかることや分からないことがあれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。保護者が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない方

ア 明らかに発熱している方（通常は37.5℃以上の場合）

イ 重い急性疾患にかかっている方

ウ このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方

エ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

裏面もご覧ください

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ア 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- イ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- エ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- オ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- カ このワクチンに対してアレルギーをおこすおそれのある方
- キ 本剤の成分（主にエリスロマイシン、カナマイシンの抗生物質）に対するアレルギーがある方

(4) 接種を受けた後の注意事項

- ア 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- イ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ウ 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- エ このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日間以上の間隔をあける必要があります。ただし、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- オ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は可能ですが、接種部位をこすることはやめましょう。
- カ 接種当日は激しい運動はさけてください。

5、副反応が起こった場合

予防接種後、まれに副反応が起こることがあります。予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることもあります。予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、体調変化が現れた場合は、速やかに接種した医師（医療機関）の診断を受けてください。